



第16回目は大桑村の土木インフラについて報告します。

公共インフラには大きく分けて、土木インフラ（道路や橋など）と公共施設（建物や公園など）があります。今回の調査レポートでは気になる土木インフラの内、村内のトンネルと橋（というよりも河川名に注目していますが）について大桑村の**インフラ長寿命化修繕計画**を参照し、報告します。

大桑村が持っているトンネルって？

村管理のトンネルは合計5つ

大桑村が管理しているトンネル（ずい道）は5つあり、全て伊奈川流域か、その付近にあります。

橋場ずい道と**田光ずい道**は普段から通る人も多いと思います。特に田光ずい道は、トンネルの先の地区に行くには他に迂回路の無い重要な生活道路の一部です。

猿鼻ずい道は相之沢発電所への、**伊奈川第1号ずい道**は伊奈川ダムへの、ルート途中にあります。普段の生活では通る機会がないですが、このトンネル通過以外に先に行くルートはありません。

越坂ずい道は越坂の頂上の下あたりを通るトンネルで、大正時代に森林鉄道用に作られたトンネルです。村所有で一番長いトンネルですが、入口にフェンスが設置され、現在通る事はできません。

いずれのトンネルも出来てから50年以上が経過していますが、**定期的な検査・修繕**が行われており、通行に支障がないように**整備されています**。

大桑村所有トンネル一覧（令和7年時点）

トンネル名	建設年	共用年数	長さm	最終修繕年
橋場ずい道	昭和4年	97年	41.6	平成29年
田光ずい道	昭和34年	67年	14.2	平成30年
猿鼻ずい道	昭和50年	51年	34.0	平成30年
伊奈川第1号ずい道	昭和50年	51年	30.8	平成28年
越坂隧道	大正10年	105年	166	廃道



伊奈川、それとも伊那川？

大桑村には伊那川橋と伊奈川橋がある

大桑村には「いながわ橋」が4つあります。橋場に掛かる「いながわ橋」が伊那川橋で伊奈川橋ではないことに気が付いたことから調査が始まりました。この伊那川橋は県道に掛かるので、長野県が管理しています。

いながわ、**河川法上の名前は「一級河川伊那川」**で、国道19号線伊奈川橋の横に**伊那川**の標識が立っています。その為、**伊奈川ダム**の発電所水利権使用標識に**伊那川**と標記されています。なかなか混乱します。

一方、**国土地理院の地図**では伊奈川と標記されています。**国道19号線**の橋と村道の橋2つは、いずれも伊奈川橋です。

どうやら**公式名は「伊那川」**で、「**伊奈川**」は地名も含めた昔からの通称のようです*1。一方、**長野県の河川防災・災害情報は「伊那川」で発表される可能性が高いので注意が必要**です。

*1: この件は平成20年7月27日付の市民タイムスでも記事になったことが分かりました、結論等はその記事を参照しています。



橋場岩出観音近くの県道265号線にかかる伊那川橋、昭和7年竣工



伊奈川・相之沢発電所水利使用標識			
河川名	一級河川	木曾川水系	伊那川 ←
許可年月日	平成28年1月15日 国部整水第114号		

伊奈川ダムにある水利使用標識の河川名は**伊那川**



国道19号線伊奈川橋



① 田光地区から大野地区へ続く ② 田光地区から浦川方面へ続く
村道の伊奈川橋

大桑村橋梁長寿命化修繕計画*1によれば、現在村が管理している橋は104あります。令和6年時点、その内の53%(55橋)が建設から50年以上経過しています。更に20年後の**令和26年には89%(93橋)が50年以上経過し、村のほとんどの橋が高齢化**することになります。

橋を架け替えるには多額の予算が必要となりますが、人口減少による村の歳入減少は今後も続くので、出来る事には限りがあります。

人口が減っても、**今と同じような生活を維持**するには、道路や橋などの**公共インフラが今と同じように使えることが前提**となります。私たちの日常の健康管理と同じように、日頃の公共インフラのメンテナンスが長寿命化を可能とします。今後の**長寿命化計画に注目**です。



*1 QRコード